

奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民投句  
令和三年三月度 入選句（投稿総数二千十三句・一般投句数四百六十三句）

特選

もの言わぬまま母生きて春の闇

大垣市

山田 千歌子

もの言わぬは もの言えぬ のであろう。言いたくも言えないのである。そのものを言えない母を見守る子の心を思うと胸が痛むけれど、母生きて とあるからそれでも健気に生きる母を頼もしく思っているのである。春の闇という季語は、初々しさ 柔らかさを重ねる生命力を秘めた闇であることから、一縷の希望のひかりを求めるの心を大切にされていたのだと思う。

猫柳兄の仏花として手折る

大垣市

小林 研

猫柳は日当たりのよい小川や山地の溪流の岸などに自生し、銀色に覆われた花穂をつけ春來るを告げる植物。それを見つけて兄の仏花にと考えたのには、兄の後を追って、野山を駆け回った時に、何か特別の思いが残っていたのであろう。

そうだ 久しぶりに兄の墓へ行ってみよう。猫柳を手折る手にも力が籠る。

春浅しメトロノームの三拍子

揖斐郡大野町

藤田 涼子

「春浅し」の季語は季節のうつろいを感じとして捉えるの意識の表現。メトロノームの快い三拍子の響きが、春浅しのイメージと旨くマッチングして心おどるの思い、三拍子はいわゆるワルツ、ワルツはいわば円舞曲でもあり、春を呼び 春を演出するにはふさわしい曲、春がスカートを翻しながら、ワルツの三拍子に乗って軽快にやってくるのである。

秀逸

一番に咲く蠟梅の香りかな

本巢郡北方町

三輪 幸恵

冬苺そうだやっぱり謝ろう

東京都世田谷区

関戸 信治

春一番送電線のうなりかな

大垣市

秋山 くに子

抱かれいる赤子のあくび梅の花

大垣市

大杉 すみゑ

薄氷を踏みて童にかへりけり

不破郡垂井町

児玉 信子

翔つ鳥の水面に春の立つ気配

大垣市

高田 雅章

水温む手にやわらかき自噴水

大垣市

井沢 美志津

引く眉の今日も歪んで山笑ふ

大垣市

末守 節子

川沿ひのおくのほそ道木の芽吹く

兵庫県神戸市

岸下 庄二

胼の手は吾の勲章妻介護

大阪府東大阪市

森 佳月

入選

針の目を追ふ立春の日差かな  
春めくや箸置きふたつ買ひ足しぬ  
ふりくるを舌で受けとめ春の雪  
登校の子らの縦列風光る  
春そこにマスク外して話したい  
ゆらゆらと光くづして春の川  
春の虹消えて介護に戻らねば  
下萌や集い草引く奉仕の日  
下萌に小川の水も動き出す  
輝やいて高く高くへしやぼん玉

神奈川県大和市 岩田 爾瑠  
不破郡垂井町 小坂 久美子  
大垣市 大原 和子  
愛知県名古屋市 舘野 茂子  
京都府宇治市 椎原 園美  
揖斐郡揖斐川町 栗野 みねお  
埼玉県川口市 吉永 寿美子  
大垣市 矢代 由美子  
大垣市 赤塚 つねみ  
大垣市 松岡 みつ

入選

露の薑こんな空が青いとは  
余寒なほレジのつり銭熱をもつ  
水車より真つ逆さまの春の水  
露の薑つみし指先香り立つ  
お使いの出来る子となり春隣  
陶工の轆轤蹴る足春を呼ぶ  
下萌や土押し上げて命の芽  
始発待つ駅のホームの寒さかな  
縁側にいつもの猫や日脚伸ぶ  
待つことのある幸せや笹子鳴く

大垣市 新町 恵子  
大垣市 佐藤 すみ子  
安八郡輪之内町 野村 照子  
不破郡垂井町 傍島 法苑  
大垣市 鶴田 信子  
不破郡垂井町 西田 厚堂  
岐阜市 田中 淳子  
安八郡神戸町 高橋 日出美  
神奈川県川崎市 佐藤 廣枝  
神奈川県相模原市 中村 光枝

選者吟

白衣らに明るき昼や初ざくら

青志